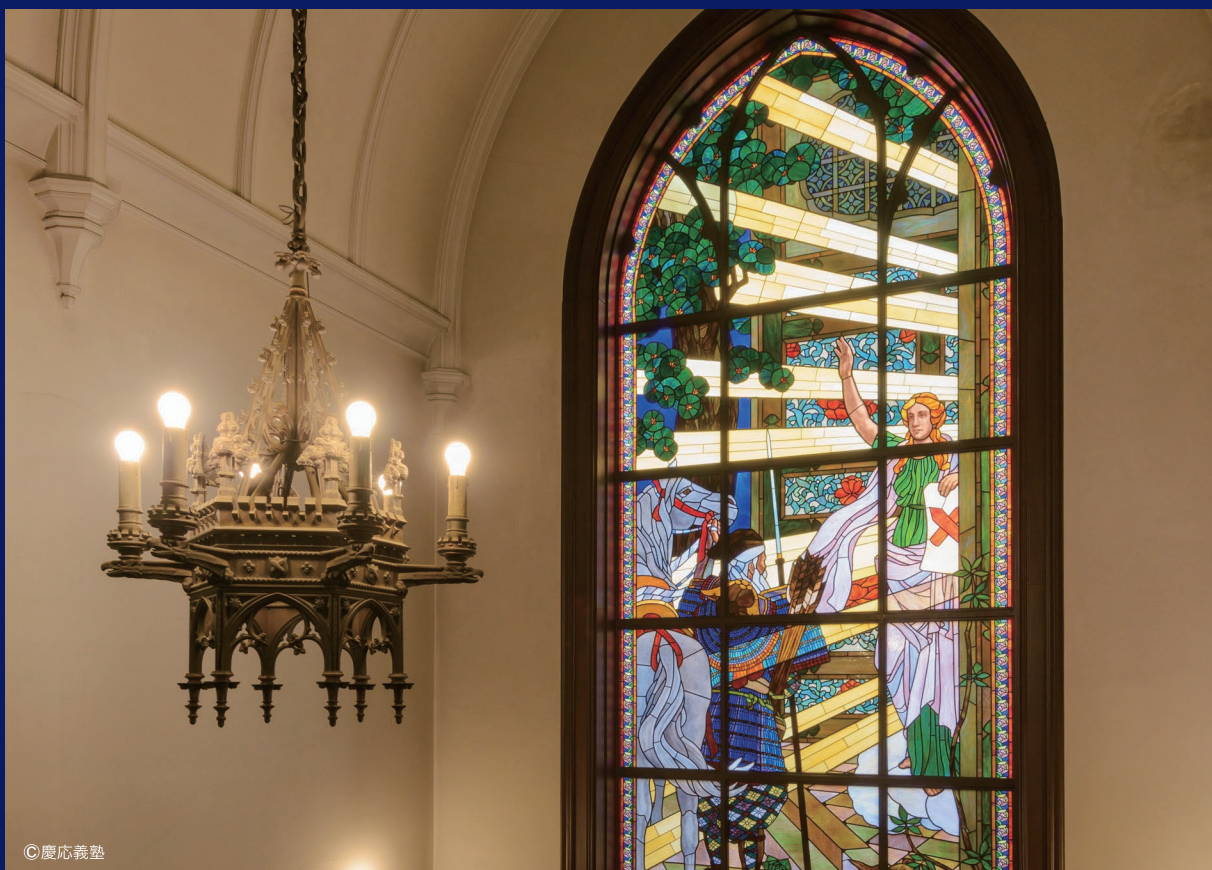




2024年3月【第48号】
公認会計士三田会

会報



会報

公認会計士三田会

目 次

会長挨拶	1
公認会計士三田会 会長／小坂義人	
公認会計士として今思う事	2
公認会計士三田会 副会長／大塚敏弘	
グローバルファームの日本代表として	3
RSM 汐留パートナーズ株式会社 代表取締役社長 CEO／前川研吾	
足腰を鍛える	4
株式会社 ACROVE 取締役 上級執行役員 管理本部長／吉田和樹	
かけがえのない仲間と共に	5
法学部 3 年在学中（新 4 年生）／野村準	
理想の人物像を追い求めて	6
商学部 1 年生（新 2 年生）／石橋里桜	
公認会計士試験の状況	7
連続49年間、合格者数首位を堅持	
公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表	8
役員一覧	9
総会・新人歓迎会	10
秋季研修会・懇親会	12
ゴルフ報告	12
公認会計士三田会・会則	13



会長挨拶

公認会計士三田会会員の皆様、私は昨年5月に当会会長に就任いたしました、昭和53年(1978)商学部卒の小坂義人と申します。よろしくお願ひ申し上げます。

小見山前会長がコロナ禍の中、4年間で築いてくださったこと、とりわけ慶應義塾のイノベーション推進本部への協力支援については、私もこの方針を引き継いでいきたいと思ひます。すでに、スタートアップ事業においては会社設立等の支援を始めており、今後も慶應義塾と公認会計士三田会の良き関係を築くべく、継続していききたいと思ひます。

さて、公認会計士三田会は近々創立50周年を迎えます。多くの先輩方が築いてこられたこの会の伝統を守ると同時に、より素晴らしい会に成長させていくことがこれからの課題だと思ひます。

ご存じの通り大学別の合格者は昨年で49年連続1位を維持しております。これは、稀にみる快挙であり、慶應義塾の誇りであると確信しています。今後もこの地位を維持できるよう、公認会計士の将来に夢があることを公認会計士三田会としての活動により、伝えることで若い方々がこの世界の入り口に立っていただければ幸いと思ひます。

改めて、この会の活動について紹介しますと、例年3月に総会、新人歓迎懇親会を銀座交詢社で行っております。この会には会員の方ももちろん、慶應義塾の経済、商学部教授の方々、他校の会計士OB会の方、また、他の士業三田会の方にも参加いただき、監査法人、年齢等の壁を越えて大いに盛り上がる会になっております。

次に秋季研修会として三田校舎で講演会、

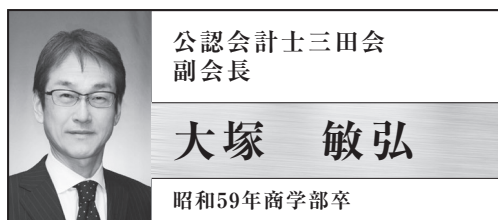
懇親会を開催しております。昨年はイノベーション推進本部、常任理事の山岸広太郎様に講演いただき、活発な質疑応答も行われました。

さらに、ゴルフの活動も盛んです。卒業大学別対抗戦(十月会)、早慶対抗戦、そして三田会の単独コンペと年に3回ゴルフの大会があります。ゴルフを通して業界の方々との交流を広めるには絶好の機会になっています。ちなみに私はこのゴルフ担当幹事を会計士補の時代から仰せつかっており、自称ゴルフ部監督と名乗っております(笑)。ゴルフをすでになさっている方はもちろん、これから始めようとする方もどうぞ奮ってご参加ください。

公認会計士の世界は素晴らしい将来があることを信じています。1983年に刊行された「ビッグエイト」(当時、米国の大手監査法人が8社あり、その総称)という本の中に、「公認会計士は世間では非常に高い信用力があり、業界にも優秀な人材がどんどん集まってくる。ゆえにこの先の将来は大いに開けている。」とありました。(例えば当時は映画のアカデミー賞受賞者の封切りは公認会計士が行っていました。)40年も前の話ですが、本質は今も一緒だと思ひます。

実は、私はこの本を読んだことでこの世界を目指すことになりました。

近年、公認会計士、監査法人を取り巻く環境は厳しいものとなっておりますが、われわれ公認会計士三田会の活動を通して夢のある素晴らしい業界であることを広めていくために、誇りをもってこの会の運営をしていきたいと思ひます。皆様の積極的な公認会計士三田会へのご参加を心よりお待ちしております。



公認会計士として今思う事

皆様、こんにちは。公認会計士三田会副会長を務めております大塚敏弘と申します。私は監査法人に所属して会計監査業務に40年近く従事しています。そろそろゴールも見えてきた今、そのキャリアを振り返ってみると会計監査を取り巻く環境は大きく変わりました。特にここ数年のデジタル技術の発展と被監査会社が扱うデータの膨大さは目を見張るものがあります。

これらの変化に対応するように、会計監査業界も、監査の深度化、効率化を求め、監査プロセスのプラットフォーム化、データ分析やデータマイニング、AI等のデジタルテクノロジーの活用による監査ツールの開発に多額の投資をし、監査プロセスを変革してきています。

データ分析やデータマイニングのツールは被監査会社が保有する膨大なデータからデータの整理や統計的な分析、パターンの発見、異常検知などにより、効率的かつ深度ある監査を実現させます。また、従来型のAIを活用することで、繰り返しの業務を自動化し、数字のチェックや契約書、証票などの照合、検証などの人間のエラーを低減することができます。

さらに2022年に公開されたチャットGPTに代表される生成AIは、我々の生産性を劇的に高めるだけではなく、例えば、被監査会社の財務データだけでなく、外部のデータやリソースを活用して、財務データだけでは分からない背景や影響要因を考慮に入れ、過去のデータやトレンドを分析し、将来の予測を行うことができるようになるでしょう。

このように最新技術を使った監査の変化に対応するためには、会計監査に従事する公認会計士もデジタルリテラシーを高めると共に、より高度な分析能力を保持することが求められてきています。

我々公認会計士の業務は技術の進歩や市場のニーズのような環境が変われば、その内容、プロセスも変化します。したがって、常に環境の変化を読み取り我々が保持しなければならない必要な新しい知識、技能を身に付けて行く必要があります。

しかしながら、技術が進化し、より多くの情報及び膨大なデータが氾濫し、ステークホルダーが求める情報の内容が変わったとしても、公認会計士に求められる資質が変わることはありません。情報が氾濫し、フェイクな情報も流れ、人々が何を信頼しているかわからない社会だからこそ、公認会計士のように高度な倫理観、知識、技能を備え、誠実かつ公平に職務を遂行する存在は貴重です。

私はどのような時代であっても、自分自身のパーパスを意識し、自身のプリンスプルをもって考えることが重要だと考えます。誰か1人のリーダーにフォローするスタイルではなく、1人ひとりが自身のリーダーであるスタイルで取り組むことが重要です。

現代のように変化が激しく、不確実性が高い時代だからこそ、変わらないものを認識し大切にしていきたいものです。



グローバルファームの日本代表として

公認会計士三田会の皆様、初めまして。令和5年に慶應義塾大学大学院経営管理研究科(EMBAコース)を修了しました前川研吾と申します。私は北海道釧路市出身で北海道大学経済学部に進学しましたが、公認会計士となり独立開業した後、経営についてより深く学ぶべくKBSに進学しました。少し変わった経歴にもかかわらず、公認会計士三田会にお迎え頂いたことを心から御礼申し上げます。

私は、EY新日本有限責任監査法人の国内監査部とIPO事業部で約5年間務めた後、2008年に汐留パートナーズ株式会社(現RSM汐留パートナーズ株式会社)を設立し、約15年間ワンストップでクライアントのご支援を行ってまいりました。公認会計士だけではなく、税理士・社会保険労務士・行政書士・司法書士などの専門家と共にクライアントの課題解決のお手伝いをさせて頂いております。

弊社グループは令和4年に世界第6位の国際会計ネットワークであるRSMインターナショナルに加盟し、日本において会計税務業務・人事労務業務・法務業務・コンサルティング業務等を提供するメンバーファームとなりました。これまで私は日本企業に対して日本国内でのプロフェッショナルサービスを提供していましたが、国境を超えてビジネスを行う国内外のミドルマーケットのクライアントを支援する立場となり、自分の職業人生においても大きな変化のタイミングを迎えています。

私自身としても、英語学習のみならず国際ビジネスについて、あるいは、ESGやダイ

バーシティなどについての幅広い経営スキルが求められることとなりました。人生100年時代ですので、40歳という年齢でビジネススクールに入学し学び直しをすることは決して遅くはないと考えました。慶應義塾では素晴らしい教授陣による授業を受講し、また、生涯に渡ってお付き合いさせて頂きたい数多くの友人を得ることができました。公私ともに貴重な2年間の大学院生活であったと思います。

世の中が劇的に変化しており、これまでの10年よりもこれからの10年の方が、社会環境やビジネス環境が大きく変化すると思います。サステナブルで強固な公認会計士三田会を通じて、今後世代を超えて繋がらせて頂き、互いに助け合って変化に対応していけることを楽しみにしています。

まだ私も道半ばですが、通常のプロフェッショナルサービスの提供のみならず、日本企業の海外進出支援、海外企業の日本進出支援なども含めた事業を通じて、微力ながら世の中に貢献していきたいと考えています。慶應義塾の先輩方のお力になれるよう、また、後輩の良い手本となれるよう精進してまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。



足腰を鍛える

公認会計士三田会の皆様、初めまして。平成31年に法学部法律学科を卒業いたしました、吉田和樹と申します。この度、会報への寄稿という大変貴重な機会を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

今回どの様な内容を書くべきか少し悩みましたが、せっかく頂戴した機会ですので私自身のこれまでのキャリア、今置かれている状況、本年のテーマについて記載が出来ればと思います。

私は平成29年に論文式試験に合格をし、平成31年に新卒で有限責任あずさ監査法人に入社いたしました。監査法人での生活は、大規模クライアントのグローバル監査や他法人からのクライアント引き継ぎ(初年度監査)に加え、短期間の米国KPMGでの業務経験、リクルーター活動など、非常に充実した経験をさせていただいておりましたが、ACROVEの代表取締役である荒井とは昔からの知り合いである等のご縁もあり、2年半という短い在籍期間で監査法人の退職を決意し、当時シード期真っ盛りのACROVEに入社いたしました。

ACROVEに入社後の私とえば、商品の梱包発送作業(当社がEC事業を営んでおり、入社直後は何でもやれることはやろう!と、一日50箱くらい梱包しており、今でもパッケージングにはそれなりに自信があります笑)に始まり、その後は徐々に管理本部の立ち上げや、シリーズA・シリーズBラウンドにて総額約20億円程度のエクイティファイナンスの主導、直近1年半では11件のM&Aの実行(別のメンバーが主導)等を推進して参

りました。

ここでテーマである「足腰を鍛える」に戻ります。

前述の通り、当社では直近1年半で11件のM&Aの実行により、グループ会社管理が非常に重要性の高いテーマとなっていることや、上場準備業務も以前に増して重要性が上がってきているなど、より強固な内部統制の整備(組織の足腰を鍛えること)が必要な状況でございます。またそういった中で私自身も、日々の苦労や失敗から得られる学びを血肉に変え、組織の成長スピードに負けない個人成長を実現していくこと(個人の足腰を鍛えること)こそが、ACROVEにとっても非常に重要であると考えています。

もちろん、組織としても個人としても、常に現状に満足せず、都度高い目標を掲げていく気持ちでありますので、足腰を鍛えていく営みは人生を通して終わりのないものだと思いますが、特に強く心に誓った本年を「足腰を鍛える元年」として皆様に宣言することで、この先の社会人生活も全力で邁進していきたいと思っております。

改めてにはなりますが、私個人の成長を通じて組織に貢献し、組織を通じて社会に価値を還元していくことで、一公認会計士としての役割を全うして参りますので、引き続き皆様方のご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願いたします。



かけがえのない仲間と共に

公認会計士三田会の皆様初めまして、法学部3年在学中(新4年生)の野村準と申します。この度、公認会計士三田会の会報へ寄稿する機会を頂きましたこと、大変光栄なことであり、御礼申し上げます。

私は、2023年(大学3年時)の公認会計士論文式試験に総合1位合格をし、大手監査法人に内定を頂きました。会計士として自分のあるべき姿はなにか、思慮し健闘する日々を送っております。

私は2015年4月に慶應義塾中等部に入學し、「自立した個人を育む、自由」な教育を賜りました。「気品の泉源」で「知徳の模範」たるためには自分で考え、自分で行動し、そしてその結果に責任を持つことが何よりも大切であるということを学びました。

2018年4月には、慶應義塾志木高等学校へ入学し、自由の大切さと、そこに伴う責任の重さを感じました。決断をする難しさとそこにあらゆる知見が求められることを改めて実感し、学びを続けることの大切さを学びました。

私が公認会計士の勉強を始めたのは、2022年5月、大学2年となった春のことでした。いまだ世の中が新型コロナウイルスの脅威にさらされる中、ただ日々を消化するがごとく過ごしている自分の姿に疑念を抱いたのがきっかけでした。

かつて福澤先生も「進まざるは必ず退き、退かざる者は必ず進む」とおっしゃったとおり、何事も行動を起こさないことは停滞はおろか、後退をもたらします。ただ漫然と過ごす日々は当然望ましいものではなく、「何か一つ大学生生活の成果として形あるものを残せば」

と思い、勉強を始めるに至りました。

公認会計士の勉強にあたっては、素晴らしい友人に恵まれました。決して平坦なものではない合格への道のりを共に切磋琢磨して進む仲間の存在は私にとってかけがえのないもので、私は合格に至るまで仲間と共に過ごした日々を一生忘れません。

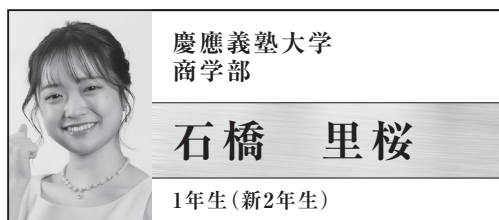
私は現在、受験生時代に通っていた予備校でチューターとして業務を行っています。自分と同じく公認会計士を目指すいわば“会計士の卵”である受験生がその夢をかなえられるよう、私の力でできることを尽くしてサポートをし、微力ながら会計士業界の発展に寄与できればと考えています。

また、私自身といたしましても社会から信頼される公認会計士となれるよう、学び続ける所存であります。

さらに、「活用なき学問は、無学に等しい」ともいわれるように、その学んだことを実際の業務現場においても十分に活用し、実学を重視してまいりたいと思っております。

最後になりますが、公認会計士試験の受験生活にとどまらず今に至るまで、私は様々な方々に出会い、その方々の助力によって今の私が在ります。全ての出会いに感謝し、恩に報いることができるよう、日々邁進してまいります。

実学を体現した、社会から信頼される公認会計士になるため精進してまいりますので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。



理想の人物像を追い求めて

公認会計士三田会の皆様初めまして、商学部1年在学中の石橋里桜と申します。この度は皆様の会報誌でご紹介いただけたこと、大変光栄に存じます。御礼申し上げます。

私は、2020年に慶應義塾女子高等学校に入学いたしました。女子高等学校で長く教壇に立たれている先生や女子高等学校出身の先生のお話から導き出される卒業生像というのは、強く逞しく芯のある女性でした。中学生までの私は引っ込み思案な性格で、自己主張は最低限で良く、尊敬する誰かを頼りに生きていければそれで十分、と思っていました。先生方の語る女子高等学校の卒業生像は、そんな私に衝撃を与えました。私も先輩方のように強く逞しく芯のある立派な女性になり、自分の人生を自分の力で自由に切り拓いていけるようになりたいと、強く思うようになりました。そんな時に公認会計士という道があることを知り、私の理想とする女性像への第一歩として高校1年生の3月に勉強を開始いたしました。

そして、公認会計士を目指すきっかけを与えてくださった女子高等学校は、合格に向け努力するための十分な環境も恵んでくださりました。私の目標を深く理解し、悩んだ時には相談にのってくださる先生方や、いつも温かい空気で見守り寄り添ってくれた、心から尊敬しあえる友人たちに恵まれ、高校在学中の短答式試験合格を達成するに至りました。女子高等学校が掲げる、「生徒が自由に学び、一人ひとりの中に眠る優れたものを自らが考え、開発・発育させ、そして自身の生き方・新しい世界を創造してゆく機会や場

をつくる」[自分を大切にし、他人の立場と意見を尊重し、自分を愛する気持ちで隣人を愛する人となるよう、知性を磨き情操を育てる]といった教育理念を、身をもって感じることができました。

高校卒業後は慶應義塾大学商学部に進学し、大学1年在学時に論文式試験に合格いたしました。同じく大学1年在学時、大手監査法人に内定を頂き、現在は公認会計士予備校でのチューターやインターンに取り組んでおります。勉強が生活の中心であった受験生時代に比べ、毎日が新しく刺激的で、数多くの成長の機会をいただけることに感謝の気持ちを抱きながら日々を過ごしています。

最後になりますが、慶應義塾女子高等学校の教育理念にもある「自分を大切にし、他人の立場と意見を尊重し、自分を愛する気持ちで隣人を愛する人」になることが私の人生の目標です。この理念を体現するような、強く逞しく芯を持ちつつ人に寄り添えるやさしい女性になり、社会に貢献できるよう精進して参ります。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

《公認会計士試験の状況》 —— 連続 49 年間、合格者数首位を堅持 ——

令和5年公認会計士試験は、令和5年11月17日に合格者が発表されました。

令和4年の公認会計士試験は、願書提出者総数20,317人、論文式受験者数4,192人、最終合格者数1,544人となっています。合格率は7.6%でした。このうち、慶應義塾出身の補習所登録者数は165人であり、2位早稲田の128人に37人の差で首位となりました。これにより、慶應義塾は旧試験制度から49年間連続して、公認会計士試験の王座を獲得しました。また、慶應義塾大学在学中の合格者95名輩出しています。今後も合格者数首位を目指して、塾出身の受験者の確保と合格率上昇のためのバックアップを一層強化できるよう、関係各位のご協力をお願い申し上げます。

【令和4年公認会計士試験の概要 短答式試験受験者等対象】

願書出願者総数	20,317人（前年18,789人）
短答式合格者数	2,103人（前年1,979人）
最終合格者数	1,544人（前年1,456人）
合格率	7.6%（前年7.7%）

【主な大学の合格者数（公認会計士三田会調べ）】

慶應義塾165名、早稲田128名、明治101名、東京56名、同志社56名、
中央55名、京都50名、神戸44名、一橋38名、法政38名、立命館38名

以上

公認会計士第2次試験及び公認会計士試験 大学・年度別合格者数一覧表

公認会計士三田会調べ

		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
1	昭和45年度 (1970)	慶徳義塾 39	中央 29	早稲田 26	東京 12	一橋 9	明治 9	神戸 8	同志社 8	横浜国立 7	関西 4
2	昭和46年度 (1971)	中央 51	早稲田 38	慶徳義塾 28	明治 22	横浜国立 14	東京 8	神戸 8	同志社 7	京都 5	大阪市立 4
3	昭和47年度 (1972)	慶徳義塾 48	中央 47	早稲田 32	明治 17	東京 13	神戸 11	京都 10	一橋 9	横浜国立 6	同志社 5
4	昭和48年度 (1973)	慶徳義塾 42	早稲田 39	明治 30	中央 15	一橋 11	東京 18	日本 8	法政 5	横浜国立 2	立教 1
5	昭和49年度 (1974)	中央 65	慶徳義塾 42	早稲田 42	明治 25	東京 10	一橋 8	横浜国立 7	法政 5	立教 5	-
6	昭和50年度 (1975)	慶徳義塾 32	中央 22	早稲田 16	明治 16	東京 9	日本 6	法政 5	一橋 3	-	-
7	昭和51年度 (1976)	慶徳義塾 50	早稲田 44	中央 29	明治 28	一橋 14	日本 8	法政 6	横浜国立 6	立教 6	東京 5
8	昭和52年度 (1977)	慶徳義塾 45	早稲田 44	明治 30	中央 26	一橋 13	日本 7	東京 6	法政 6	立教 6	横浜国立 5
9	昭和53年度 (1978)	慶徳義塾 39	早稲田 37	中央 34	明治 13	一橋 6	法政 6	東京 5	横浜国立 5	立教 3	日本 2
10	昭和54年度 (1979)	慶徳義塾 36	早稲田 29	中央 23	明治 14	一橋 9	法政 8	東京 5	横浜国立 5	立教 5	日本 5
11	昭和55年度 (1980)	慶徳義塾 30	早稲田 30	中央 27	明治 17	一橋 9	横浜国立 8	法政 5	東京 3	立教 3	-
12	昭和56年度 (1981)	慶徳義塾 26	早稲田 24	中央 20	明治 13	一橋 10	横浜国立 7	東京 6	法政 6	日本 3	立教 2
13	昭和57年度 (1982)	慶徳義塾 26	早稲田 18	明治 16	中央 14	一橋 11	東京 8	法政 5	4	立教 4	日本 1
14	昭和58年度 (1983)	慶徳義塾 39	早稲田 34	中央 20	明治 19	一橋 9	法政 8	一橋 8	東京 5	立教 5	日本 2
15	昭和59年度 (1984)	慶徳義塾 54	早稲田 40	中央 27	明治 20	一橋 12	横浜国立 11	東京 8	法政 5	日本 6	立教 3
16	昭和60年度 (1985)	慶徳義塾 53	早稲田 36	中央 21	明治 19	一橋 10	横浜国立 10	法政 12	日本 9	東京 9	立教 2
17	昭和61年度 (1986)	慶徳義塾 63	早稲田 56	中央 40	明治 28	一橋 12	横浜国立 12	東京 14	法政 13	日本 14	立教 4
18	昭和62年度 (1987)	慶徳義塾 68	早稲田 49	中央 36	明治 27	一橋 15	横浜国立 15	東京 13	法政 7	日本 7	立教 5
19	昭和63年度 (1988)	慶徳義塾 68	早稲田 45	中央 38	明治 23	一橋 18	東京 13	法政 13	横浜国立 10	日本 6	立教 2
20	平成元年度 (1989)	慶徳義塾 108	早稲田 67	中央 35	明治 35	東京 26	一橋 18	法政 12	立教 12	日本 11	横浜国立 9
21	平成2年度 (1990)	慶徳義塾 111	早稲田 78	中央 46	明治 36	一橋 24	東京 21	横浜国立 15	法政 15	立教 9	日本 8
22	平成3年度 (1991)	慶徳義塾 108	早稲田 101	中央 50	明治 45	一橋 32	東京 28	横浜国立 14	法政 10	日本 8	立教 11
23	平成4年度 (1992)	慶徳義塾 126	早稲田 110	一橋 46	中央 41	東京 40	明治 36	法政 24	横浜国立 19	立教 14	日本 5
24	平成5年度 (1993)	慶徳義塾 109	早稲田 98	中央 46	東京 45	一橋 36	明治 32	法政 13	横浜国立 19	立教 8	日本 15
25	平成6年度 (1994)	慶徳義塾 140	早稲田 102	東京 57	一橋 37	中央 29	明治 27	横浜国立 19	法政 14	立教 10	日本 4
26	平成7年度 (1995)	慶徳義塾 134	早稲田 134	中央 41	東京 39	一橋 27	明治 22	横浜国立 15	法政 11	日本 8	立教 8
27	平成8年度 (1996)	慶徳義塾 115	早稲田 95	中央 39	一橋 38	東京 34	明治 23	横浜国立 22	法政 14	日本 11	立教 4
28	平成9年度 (1997)	慶徳義塾 115	早稲田 85	中央 38	東京 33	一橋 29	明治 23	横浜国立 14	法政 14	立教 12	日本 8
29	平成10年度 (1998)	慶徳義塾 119	早稲田 97	中央 34	東京 29	一橋 28	明治 21	横浜国立 14	法政 13	日本 12	立教 9
30	平成11年度 (1999)	慶徳義塾 133	早稲田 88	中央 47	東京 47	一橋 35	明治 27	法政 23	横浜国立 21	日本 12	立教 11
31	平成12年度 (2000)	慶徳義塾 136	早稲田 90	中央 60	東京 50	一橋 35	明治 35	法政 23	立教 18	横浜国立 16	日本 13
32	平成13年度 (2001)	慶徳義塾 155	早稲田 134	東京 68	中央 59	一橋 47	明治 42	横浜国立 22	日本 13	法政 11	立教 11
33	平成14年度 (2002)	慶徳義塾 183	早稲田 140	中央 94	東京 75	一橋 54	明治 39	横浜国立 23	法政 22	立教 21	日本 16
34	平成15年度 (2003)	慶徳義塾 228	早稲田 152	東京 78	中央 76	一橋 71	明治 49	同志社 48	神戸 47	同志社 45	大阪 37
35	平成16年度 (2004)	慶徳義塾 208	早稲田 153	東京 93	中央 76	神戸 62	明治 60	同志社 56	立教 56	京都 50	立命館 40
36	平成17年度 (2005)	慶徳義塾 209	早稲田 159	中央 106	東京 61	一橋 51	同志社 48	神戸 43	明治 40	同志社 40	関西学院 37
37	平成18年度 (2006)	慶徳義塾 224	早稲田 146	東京 73	中央 69	一橋 64	明治 55	同志社 49	立教 48	神戸 38	関西学院 35
38	平成19年度 (2007)	慶徳義塾 411	早稲田 293	中央 150	明治 105	神戸 105	同志社 102	東京 99	一橋 94	立教 73	立命館 71
39	平成20年度 (2008)	慶徳義塾 375	早稲田 307	中央 160	東京 114	明治 110	同志社 102	立命館 93	立教 85	神戸 83	京都 82
40	平成21年度 (2009)	慶徳義塾 288	早稲田 247	中央 159	東京 84	明治 72	一橋 56	同志社 56	立命館 52	神戸 52	同志社 49
41	平成22年度 (2010)	慶徳義塾 251	早稲田 221	中央 152	明治 98	東京 67	同志社 62	立命館 57	立教 49	関西学院 46	京都 45
42	平成23年度 (2011)	慶徳義塾 210	早稲田 169	中央 96	明治 83	立命館 52	京都 47	一橋 46	立教 44	同志社 38	関西学院 36
43	平成24年度 (2012)	慶徳義塾 161	早稲田 109	中央 99	明治 63	同志社 49	法政 38	立命館 30	神戸 29	青山学院 29	東京 28
44	平成25年度 (2013)	慶徳義塾 121	早稲田 93	中央 77	明治 68	同志社 49	神戸 36	東京 33	関西学院 32	京都 31	青山学院 26
45	平成26年度 (2014)	慶徳義塾 120	早稲田 94	中央 87	明治 69	同志社 43	立命館 29	関西学院 29	同志社 28	法政 27	神戸 27
46	平成27年度 (2015)	慶徳義塾 123	早稲田 91	中央 64	明治 56	同志社 33	関西学院 29	立命館 28	立教 28	神戸 23	東京 22
47	平成28年度 (2016)	慶徳義塾 139	早稲田 96	中央 96	明治 72	東京 36	同志社 33	立命館 29	立教 27	関西学院 27	神戸 26
48	平成29年度 (2017)	慶徳義塾 157	早稲田 111	明治 84	中央 77	東京 50	京都 48	一橋 36	立命館 31	神戸 29	専修 29
49	平成30年度 (2018)	慶徳義塾 144	早稲田 115	中央 77	明治 77	東京 43	京都 39	立命館 37	一橋 37	同志社 34	立教 32
50	令和元年度 (2019)	慶徳義塾 185	早稲田 105	明治 81	中央 71	東京 40	京都 38	立命館 38	神戸 36	一橋 34	法政 34
51	令和2年度 (2020)	慶徳義塾 169	早稲田 98	中央 74	明治 74	立命館 59	東京 47	神戸 47	京都 43	法政 42	同志社 34
52	令和3年度 (2021)	慶徳義塾 178	早稲田 126	中央 72	明治 65	立命館 58	東京 49	神戸 41	京都 38	大阪 26	一橋 35
53	令和4年度 (2022)	慶徳義塾 187	早稲田 109	明治 86	中央 57	立命館 54	同志社 54	神戸 50	立教 47	同志社 44	一橋 38
54	令和5年度 (2023)	慶徳義塾 165	早稲田 128	明治 101	東京 56	同志社 56	立教 55	立命館 50	神戸 44	一橋/法政/立命館 38	-

役員一覧

役職	卒業年度	氏名
会長	S53年卒	小坂 義弘
副会長	S59年卒	大加藤 達也
副会長	S61年卒	新井 達哉
副会長	S63年卒	森田 健司
副会長	H7年卒	新森 達哉
副会長	H8年卒	吉川 高史
幹事	S49年卒	梶川 融
幹事	S52年卒	佐藤 靖正
幹事	S53年卒	高津 行正
幹事	S54年卒	柳澤 義一
幹事	S55年卒	水田 高士
幹事	S55年卒	澤田 尚史
幹事	S55年卒	関川 弘治
幹事	S56年卒	金井 治
幹事	S58年卒	上林 三子
幹事	S58年卒	山田 雅弘
幹事	S59年卒	澤口 昭一
幹事	S59年卒	志村 さや
幹事	S60年卒	渡辺 伸啓
幹事	S60年卒	古杉 裕亮
幹事	S60年卒	山本 晃児
幹事	S61年卒	海野 美義
幹事	S61年卒	今村 友紀
幹事	S61年卒	関川 正
幹事	S62年卒	安藤 武
幹事	S62年卒	要石 博之
幹事	S62年卒	上倉 要介
幹事	S62年卒	尾立 源尚
幹事	S62年卒	川上 幸志
幹事	S63年卒	椎名 弘
幹事	S63年卒	田中 耕一郎
幹事	S63年卒	岡田 貴子
幹事	S63年卒	岡谷 直人
幹事	S63年卒	中村 元彦
幹事	H1年卒	菅野 雅也
幹事	H1年卒	吉田 慶太
幹事	H1年卒	北澄 和典
幹事	H2年卒	高橋 克典
幹事	H2年卒	藤本 貴子
幹事	H3年卒	志賀 恭
幹事	H3年卒	鈴木 真紀
幹事	H4年卒	近田 直裕
幹事	H4年卒	土田 恵一
幹事	H5年卒	荒張 健
幹事	H5年卒	百瀬 和政
幹事	H5年卒	古山 明也
幹事	H5年卒	山邊 道男
幹事	H5年卒	関川 明也
幹事	H5年卒	神塚 勲一
幹事	H5年卒	小松 亮一
幹事	H5年卒	菅谷 圭子
幹事	H6年卒	松本 憲明
幹事	H6年卒	野村 健太郎
幹事	H6年卒	野村 健太郎
幹事	H6年卒	石原 宏司
幹事	H6年卒	曾宮 啓介
幹事	H6年卒	松浦 竜
幹事	H6年卒	田中 弘隆
幹事	H7年卒	森谷 健
幹事	H7年卒	荒谷 繁
幹事	H7年卒	北村 崇
幹事	H7年卒	秋山 修一郎
幹事	H8年卒	長尾 宗尚
幹事	H8年卒	高山 雄大
幹事	H8年卒	綿貫 敦文
幹事	H8年卒	高木 修成
幹事	H8年卒	田近 和
幹事	H9年卒	古賀 智彦
幹事	H9年卒	篠崎 友宏
幹事	H9年卒	三根 大介
幹事	H9年卒	広野 清志
幹事	H9年卒	須山 誠一郎
幹事	H10年卒	江幡 淳
幹事	H10年卒	間宮 光健
幹事	H11年卒	池田 龍範
幹事	H12年卒	緒方 浩一
幹事	H12年卒	三好 巧
幹事	H13年卒	齊藤 慶三
幹事	H13年卒	本多 守
幹事	H13年卒	国見 健介
幹事	H13年卒	野中 将幸
幹事	H14年卒	小松 浩幸
幹事	H14年卒	高山 大輔
幹事	H15年卒	根建 崇
幹事	H15年卒	小川 雅嗣
幹事	H15年卒	野池 毅

役職	卒業年度	氏名
幹事	H15年卒	双木 宏
幹事	H15年卒	濱 貴之
幹事	H15年卒	荒井 悠己
幹事	H16年卒	並木 俊朗
幹事	H16年卒	門澤 麻里
幹事	H16年卒	新井 佑介
幹事	H16年卒	佐藤 彰子
幹事	H16年卒	英 正樹
幹事	H16年卒	齋藤 啓太郎
幹事	H16年卒	赤羽 悠二
幹事	H16年卒	袖野 慶二
幹事	H16年卒	岡田 泰治
幹事	H16年卒	石川 資樹
幹事	H17年卒	波佐 寿彦
幹事	H17年卒	加来 義智
幹事	H17年卒	齊藤 雄一
幹事	H17年卒	高梨 良紀
幹事	H17年卒	渡辺 一生
幹事	H17年卒	福島 崇博
幹事	H18年卒	米田 惠美
幹事	H18年卒	天野 真衣
幹事	H18年卒	清水 麻奈美
幹事	H18年卒	片山 惠
幹事	H18年卒	斎藤 智記
幹事	H19年卒	幡野 裕明
幹事	H20年卒	中谷 恵理子
幹事	H20年卒	土井 さやか
幹事	H20年卒	山根 寿晃
幹事	H21年卒	宮山 韓知
幹事	H21年卒	善林 優子
幹事	H21年卒	大星 宏晶
幹事	H21年卒	豊田 裕文
幹事	H22年卒	依田 知明
幹事	H22年卒	上田 彩夏
幹事	H22年卒	渡部 亮
幹事	H22年卒	森田 雄太
幹事	H22年卒	川西 祐輔
幹事	H23年卒	今野 洋
幹事	H23年卒	清水 裕文
幹事	H23年卒	奥山 健人
幹事	H23年卒	渡邊 三南子
幹事	H23年卒	津田 覚
幹事	H23年卒	福井 拓志
幹事	H24年卒	神原 大樹
幹事	H24年卒	矢島 淳太郎
幹事	H24年卒	藤野 里奈
幹事	H24年卒	重澤 一平
幹事	H24年卒	菅原 晃介
幹事	H24年卒	山本 早和美
幹事	H24年卒	荻野 平
幹事	H24年卒	野村 孟弘
幹事	H24年卒	山内 里花子
幹事	H24年卒	芦川 昇平
幹事	H24年卒	柿沼 龍
幹事	H25年卒	田宗 千明
幹事	H25年卒	濱田 浩介
幹事	H25年卒	井上 大輔
幹事	H25年卒	近藤 祐章
幹事	H25年卒	佐藤 佳樹
幹事	H25年卒	長野 早紀
幹事	H25年卒	浅見 理紗子
幹事	H26年卒	井口 蔵人
幹事	H26年卒	有馬 大騎
幹事	H26年卒	内藤 翔斗
幹事	H26年卒	古川 領亮
幹事	H27年卒	吉田 康太郎
幹事	H27年卒	斐 銀珍
幹事	H27年卒	古川 華土
幹事	H27年卒	阿部 紀子
幹事	H28年卒	野村 航洋
幹事	H28年卒	山本 健太郎
幹事	H28年卒	大谷 晴香
幹事	H28年卒	柴田 勝造
幹事	H28年卒	大塚 悠介
幹事	H29年卒	三浦 優一朗
幹事	H29年卒	清水 亮
幹事	H29年卒	鄭 善斗
幹事	H29年卒	岡村 拓門
幹事	H29年卒	島 仁美
幹事	H29年卒	井上 貴博
幹事	H29年卒	西村 英莉
幹事	H29年卒	寺谷 勲泰
幹事	H29年卒	水落 智久
幹事	H29年卒	塩谷 香乃
幹事	H29年卒	古作 祐真
幹事	H29年卒	後藤 祥平

役職	卒業年度	氏名
相談役	S30年退	宇野 皓三
相談役	S36年卒	野田 晃子
相談役	S42年卒	青木 雄二
相談役	S42年卒	一法師 信武
相談役	S42年卒	杉山 美代子
相談役	S43年卒	湯佐 富太郎
相談役	S45年卒	小田 幸太郎
相談役	S46年卒	佐竹 正幸
相談役	S49年卒	加藤 晶香
相談役	S51年卒	山田 辰巳
相談役	S52年卒	池上 玄
相談役	S52年卒	小見山 宏
相談役	S55年卒	森 公高
相談役	S56年卒	後藤 順子
幹事	H29年卒	井手 優太郎
幹事	H29年卒	上田 真士
幹事	H29年卒	北野 友梨
幹事	H29年卒	小松 沙里
幹事	H29年卒	大津 青葉
幹事	H29年卒	浦井 悠吾
幹事	H29年卒	清水 一輝
幹事	H29年卒	津川 雅樹
幹事	H30年卒	石谷 龍ノ介
幹事	H30年卒	西崎 竜ノ介
幹事	H30年卒	中島 奈緒子
幹事	H30年卒	清田 和輝
幹事	H30年卒	藤澤 大志
幹事	H30年卒	会川 智華
幹事	H30年卒	橋詰 日菜子
幹事	H30年卒	石井 奈緒
幹事	H31年卒	安田 真由子
幹事	H31年卒	宮川 和輝
幹事	H31年卒	鈴木 祥希
幹事	H31年卒	相原 理花
幹事	H31年卒	板東 真里
幹事	H30年卒	杉本 優太
幹事	H30年卒	富吉 遠太
幹事	H31年卒	宇野 耕太郎
幹事	H31年卒	小林 裕季
幹事	H31年卒	塩路 麻衣
幹事	H31年卒	高山 大輔
幹事	H31年卒	皆川 亮
幹事	R2年卒	坂口 あかり
幹事	R2年卒	高木 万里子
幹事	R2年卒	滝沢 美紀
幹事	R2年卒	文屋 克隆
幹事	R2年卒	本田 瑠梨奈
幹事	R2年卒	武藤 葵
幹事	R2年卒	森 祐也
幹事	R3年卒	齊藤 智弘
会計監事	S55年卒	市村 清
会計監事	H14年卒	黒澤 久美子

第47期総会

2023年5月29日18時15分から公認会計士三田会第47期総会を開催しました。第47期の事業報告、会計報告を行い、第48期事業計画及び予算を承認しました。また、任期満了に伴い、新会長として小坂義人君(S53卒)が選任されました。



新人歓迎会

総会に引き続き、4年ぶりとなる2023年新人歓迎会を開催しました。100名を超える会員と新人の方にご参加いただきました。



秋季研修会・懇親会

2023年10月5日18時30分から、慶應義塾大学三田校舎の北館ホールにおいて、秋季研修会を開催しました。慶應義塾常任理事、慶應イノベーション・イニシアティブ代表取締役社長山岸広太郎先生を講師としてお迎えして「慶應発スタートアップについて」をテーマに講演いただきました。研修会終了後は、場所を南校舎のザ・カフェテリアに映して懇親会を開催しました。山岸先生の大変有意義なお話を拝聴した直後だったこともあり、参加者は明るいつもりの雰囲気の中で談笑をし、最後は恒例の「若き血」を斉唱し楽しい一時を過ごしました。



早慶戦ゴルフ

2023年8月26日 公認会計士ゴルフ早慶戦は、山梨県のメイプルポイントゴルフクラブにおいて総勢18名という大勢の方の参加を得て開催されました。ここはピート・ダイというゴルフ場造りでは有名な方の設計ですが、さすがにコースは変化に富み難しく参加者の皆さんは苦戦していました。

結果は昨年に引き続き(圧倒的なスコアで)連覇を飾ることができました。

当日は大変な猛暑日で、ゴルフへの集中度と勝利への執念が我々三田会のほうが勝ったのだと思います。若い初参加の方も楽しんでくださったと思います。



大学対抗ゴルフ十月会

2023年10月9日 名門茨城ゴルフ倶楽部で、参加者は74名、総勢10大学のエントリーで盛大に開かれました。事前の各大学の世話人会で、従来大人数の参加大学が有利ではないかという不公平(?)を解消するため、今回から一大学の参加者が10名を超えた場合は分割して2チームでの参加というルールに変更しました。そのため我々と早稲田大学は2チームに分かれてチーム戦を戦うという形式になりました。このような状況下においても優勝は一橋大学にさらわれましたが、準優勝は我が慶應Bチームという立派な結果を出すことができました。また、個人の部では小坂選手が優勝、杉山昌明選手が3位という成績を収めることができました。

この大会は36会を重ねる大変歴史のある会になり、参加者の方々も法人、大学、年代を超えた交流がかなう素晴らしい大会になりました。



三田会ゴルフコンペ

2023年12月29日 平塚のレイクウッドゴルフクラブで参加者は2年続けて19名という盛り上がりのなか開催されました。早慶対抗、十月会とはまた別の内々の会なので笑顔と笑いの中楽しくプレイできました。クラブハウスから見る富士山は素晴らしく、毎年天気も上々で、参加者の常日頃の行いの良さを象徴しているようでした。結果はここ数年幹事を積極的にお手伝いいただいている国見さんが優勝しました。まさに三田会運営の労に対するご褒美ですね。

この大会は仲間との懇親を第一に考えていますので、ゴルフに興味のある方はぜひご参加いただければ幸いです。今年も12月29日、レイクウッドゴルフクラブの開催を予定しています。



公認会計士三田会・会則

制定 昭和52年9月1日
 改正 昭和55年1月21日
 改正 昭和58年1月10日
 改正 昭和61年1月17日
 改正 平成15年1月29日
 改正 平成15年12月4日
 改正 平成20年1月30日
 改正 平成23年12月14日

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、公認会計士三田会と称する。

(目的)

第2条 本会は、会計及び監査に関する学術の研究、会員の知識及び経験の交流、業務の協調、会員相互の親睦並びに後進の指導育成等を図ることを目的とする。

(事務所)

第3条 本会の事務所を、幹事会の指定する場所に置く。

(事業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1、会計及び監査の実務、学術等に関する研究会、講演会等の開催
- 2、内外の資料の調査、研究
- 3、業務情報の交換
- 4、会報その他刊行物の発行
- 5、その他前各号に附帯する事業

第2章 会員

(会員)

第5条 慶応義塾に在学した者で、公認会計士、会計士補、これらの有資格者及び公認会計士試験合格者をもって会員とする。

第3章 役員

(会長、副会長、幹事)

第6条 本会に、会長、副会長、幹事を置く。会長は1名とし、副会長、幹事は若干名とする。

(会計監事)

第7条 本会に、会計監事2名を置く。

(相談役)

第8条 本会に、相談役を置くことができる。

(幹事及び会計監事の選出並びに任期)

第9条 幹事及び会計監事は、会員のうちから定時総会において選出する。
 幹事及び会計監事の任期は、定時総会のときから始まって、就任後第2回目の定時総会終了のときまでとする。

(会長、副会長、相談役の選任)

第10条 会長、副会長は、幹事の互選により選出する。相談役は、会長が指名する。

第4章 総会

(総会の種類)

第11条 総会は、定時総会及び臨時総会とする。

(総会の開催)

第12条 定時総会は会計年度終了後5ヶ月以内に、臨時総会は必要に応じ、幹事会の議を経て会長が招集する。

第5章 会計

(会費)

第13条 本会の経費は、会費、臨時会費及び寄附金をもってこれに当てる。
 会費は、公認会計士は年額10,000円、会計士補ならびに公認会計士試験合格者は3,000円とする。なお、公認会計士のうち近年に卒業した会員に対して会費を一部減額することを認め、その取扱は幹事会にて決定する。
 有資格者の会費については、これに準ずる。

(会計年度)

第14条 本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

第6章 会則の変更

(会則の変更)

第15条 会則の変更は、総会の決議による。

(附則)

この会則は、昭和52年9月12日から施行する。

(附則)(平成20年1月30日改正)

第5条、第12条、第13条の改正は、第31事業年度より適用する。

(附則)(平成23年12月14日改正)

第14条の改正は、第36事業年度より適用する。

www.cpa-mitakai.net

公認会計士 三田会会報【第48号】

(令和6年3月1日発行 昭和53年1月1日創刊)

編集発行:公認会計士三田会 国見健介 洪佐寿彦

〒160-0022 東京都新宿区新宿3-14-20 新宿テアトルビル5F

CPAエクセレントパートナーズ株式会社内

TEL03-6384-2760 FAX03-6384-2390

E-mail:mitakai@cpa-net.jp